

令和4年7月1日

# 敬愛短大附属幼稚園だより 7月号

千葉敬愛短期大学の学生さんたちが観察参加実習ということで、これまで第4班目の実習が進んでいます。毎回約30名近くが参加し、将来の保育者を目指しての現場での実習はとても大切な場となります。顔を見慣れている幼稚園の先生方と異なり、園児たちも最初は戸惑っていたようですが、いざ園庭での遊びが始まると実習生を追いかけて楽しそうに過ごしています。

既に実習を終えた学生さんたちは短大に戻って報告会を行っており、「大変だったけれど楽しかった」と保育者としての新たな気持ちを持ったようです。実習生の中には保護者の皆様方とそれほど年齢が変わらず、保育の世界に魅力を感じて新たに資格を得て働こうという人もおり、自分の子どもを育てているように感じたようです。

6月からプール遊びが始まり、梅雨時とはいえ、園での生活は子どもたちにとっては既に夏になっているようです。

また、6月14日には、つくし組の福住優空くんが、色が変わったバッタを見つけたということで日本テレビ「newsevery」の取材を受けました。詳しくはYouTubeでのアドレスを記載しておきますのでご覧ください。[https://www.youtube.com/watch?v=x\\_nUFofG7cM](https://www.youtube.com/watch?v=x_nUFofG7cM)

そのほかにもヤフー等の各サイトでも取り上げられていますので、「珍しい色のバッタ」等の検索用語で探してみてください。園生活でも昆虫に興味を持ってきてくれたと思います。

## 【大人の姿で子どもたちはプラスにもマイナスにも大きく振れる】

6月2日に幼稚園では年長さんが昨年度に植え付けたジャガイモの収穫を行ったところ。今回はジャガイモと数と言葉がキーワードです。

先日、通院している総合病院で何気なく見ていると、小学校1・2年生くらいの女の子をお母さんが大きな声でしかりつけている場面を目撃しました。

お母さんから「こんな計算ができないの！ ジャガイモを持って帰ってくるより、算数の計算ができた方がよっぽどいい！」という大きな声が聞こえてきました。周囲には多くの通院の方がいます。女の子は下を向いたまま何も話すこともできません。

この時の女の子はどれほどのショックを受けたことでしょうか。きっと学校で収穫したジャガイモを喜んでもらおうと大事にお家に持って帰ったのでしょうか。それが数日後に先ほどの場面につながったのだと想像できました。大人でもそうですが、心が傷つくほどの言葉や場面にあうと、なかなか立ち直れないものですし、大人になってからもそうしたことは脳裏に焼き付いていてフラッシュバックしてつい先ほどのことのように強烈に蘇ります。

家庭事情がわからない私が間に入ったとしてもあの様子では「よその家庭に他人が口を出さないでください」とでも言われかねなかったかもしれません。どうすれば良かったのかとても複雑な気持ちになりました。今でもショックを受けて悲しい目をしたあの女の子の目が忘れられません。

子育てでストレスを抱えて精一杯になっていたのかもしれませんが、深く傷ついたあの子の気持ちを考えるとなんともやるせない日でした。

以前の園だよりでも書かせていただきましたが、大人の価値観で物事を判断し、それを子どもに押し付けることは良いこととは思われません。子どもには子どもなりの価値観が少しずつ育ち始めています。園の中で小さな社会を体験することで子どもたちは学んでいます。

来年度から幼稚園では10年という長い年月をかけて「ことばの泉づくりプロジェクト」をスタートさせます。ゴールは「相手を思いやる気持ちが言葉となって表現できる」としています。

もちろん表面的な言葉だけで気持ちが伝わってこないような言葉を発するだけでは不十分です。では、相手を思いやる言葉とはいったいどういう言葉なのでしょう。「ありがとう」「ごめんなさい」「よくできたね」等々、どのような言葉が考えられるかお子さんと一緒に考えてみてください。

(園長 杉山清志)